

弘前城かわら版

Vol.11 [令和6年8月13日]

史跡 弘前城跡には、四の丸の青森県護国神社境内を中心に、多くの石碑が分布しています。今回は、そのうちの1基に関係し、一説には「弘前城の恩人」とも呼ばれている弘前藩士・西館孤清について紹介します。

1.西館孤清（にしだてこせい）の来歴

西館孤清【写真1】は文政12年<1829>2月1日生まれの弘前藩士で、本名を西館平馬（にしだてへいま）といいます。弘前藩11代藩主津軽順承（ゆきつぐ）・12代藩主承昭（つぐあきら）に仕えた人で、津軽家の宗家である近衛家を警備するため、京都に駐在していました。

慶応4年<1868>に戊辰戦争が始まると、陸奥・出羽・越後の諸藩は「奥羽越列藩同盟」を結び、薩摩・長州・土佐の各藩を中心とした新政府軍に対抗する意思を示します。弘前藩もこの同盟に参加しましたが、京都でこのことを聞きつけた西館は藩の行く末を憂慮し、朝廷や近衛家からの文書を携えて弘前に戻り、奥羽越列藩同盟を脱退するよう藩を説得しました。それにより弘前藩は同盟からの脱退を決意し、結果的に新政府軍の一員として戊辰戦争で勝利することとなります。

現在弘前城跡には、江戸時代からの建造物が10棟残っているほか、城を構成する郭（くるわ）や濠（ほり）、土塁、石垣といった遺構も良好に残っています。弘前城跡の保存については、明治時代に城跡を拠点としていた陸軍の判断や、最後の藩主であった津軽承昭の尽力、そして承昭を支えた旧藩士たちの行動が大きく影響しているのですが〔中園2011〕、一説には西館の説得により、弘前藩が新政府軍に従う決断をしたこともプラスに働いたと言われています。幕末から明治という激動の時代に、優れた決断力で弘前藩を守り抜いた西館の功績を称える声は少なくありません。



【写真1】西館孤清

文政12年<1829>生～
明治25年<1892>没

2.西館孤清翁碑

幕末の弘前藩で活躍した西館孤清ですが、みなさんは弘前城跡に、彼にまつわる見学ポイントがあることをご存じでしょうか？

四の丸にある青森県護国神社の境内〔神社拝殿の裏手〕には、彼の功績を称える「西館孤清翁碑（にしだてこせいおうひ）」があります

【写真2・図4】。この石碑は大人の背丈よりも高い大きなもので、正面にのみ銘文が彫られており、明治27年<1894>3月に有志によって建立されたと分かります。

当初の石碑の建立場所は不明ですが、昭和6年<1931>時点で四の丸にあり〔森林助1931〕、昭和11年<1936>時点で護国神社境内の、現在地とほぼ同じ地点にあったことが分かります【写真3】。

西館は生涯を弘前藩と津軽家に捧げ、最期は東京で亡くなっています。墓は東京都江東区の長寿寺にあるため、弘前城跡四の丸の「西館孤清翁碑」は、弘前において彼を偲ぶことのできる数少ない場所のひとつです。ぜひ石碑を訪れ、彼に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。

【引用・参考文献】

森林助1931『津軽弘前城史』

弘前市企画部企画課2005『新編弘前市史 通史編4〔近・現代1〕』

山田晴治〔監修〕2008『弘前城を救った西館孤清』

中園美穂2011「弘前公園成立史」『弘前大学國史研究』131号

弘前市文化振興課『弘前公園の石碑めぐり』

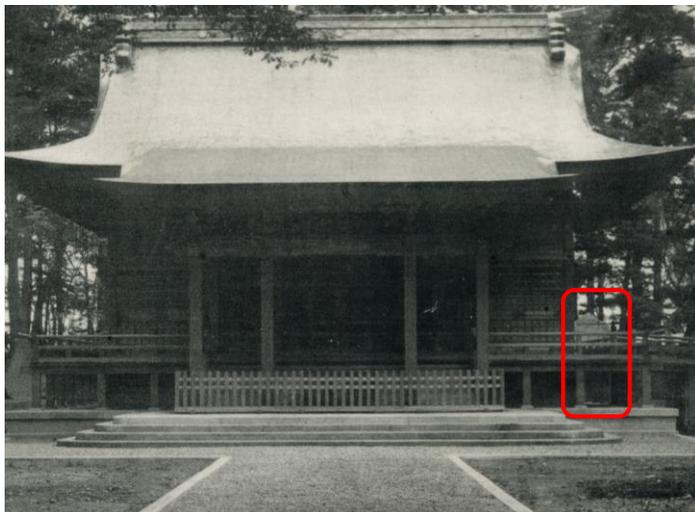


正面

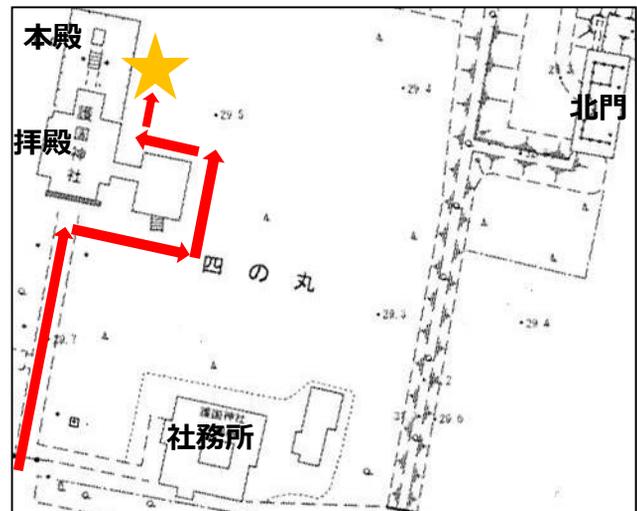


裏面

【写真2】西館孤清翁碑
〔明治27年<1894>建立〕



【写真3】青森県招魂社改築落成記念絵葉書
昭和11年<1936>・赤枠の中に石碑



【図4】西館孤清翁碑位置〔★〕

赤い矢印は、神社境内入口から石碑までのルート。

【発行】弘前市 都市整備部 公園緑地課 弘前城整備活用推進室

〒036-8356 青森県弘前市大字下白銀町1番地

電話 0172-33-8739

FAX 0172-33-8799

E-mail: kouen@city.hirosaki.lg.jp